



佐藤 潤

社団法人東北経済連合会 副会長  
観光文化委員会 副委員長

## 「私のお家も景色のひとつ」

2003年、外国人旅行者の訪日促進事業「ビジット・ジャパン・キャンペーン」が実施されて以来、我が国の外国人旅行者数は順調な増加傾向を示していた。東北においても、各国への誘客プロモーションが積極的に行われ、各地方空港でアジア諸国を結ぶ国際線が新規就航・増便するなど、インバウンド誘致に向けて着実に進展を遂げていた。しかし、そんな努力が実りつつあった矢先に起こった東日本大震災。あの日から今もなお、東北を訪れる外国人旅行者数に回復の兆しは見えていない。

しかし、この状況を傍観しているわけにはいかない。外国人旅行者数の回復に向けて、今は「東北は安全安心」という周知の徹底を図ると同時に、各観光地の魅力アップに向けて傾注すべき時である。

外国人旅行者から見た東北の魅力。それは取りも直さず四季折々の美しい景色、浴衣に着替え畳で寛ぐ日本旅館、人との触れ合いがある温泉など、所謂日本らしい伝統、文化、自然にたっぷり浸れることに尽きるだろう。しかしながら今の観光地はどうだろうか。安易に近代的で快適なものを求めるあまり、古き良き日本らしさが消えた、画一的な観光地が増えているように思えてならない。

海外の人気のある街は、古き良き旧市街地の佇まいが美しく、観光客を十分に満足させる魅力がある。そこに暮らす人々も、多少の不便を感じながらも、その歴史に誇りを持ち長い年月守り続けている。

日本が、東北が、今後先進地である海外の観光地と競っていくためには、それぞれの土地の歴史文化を守る精神をもっと大切にしていくなさざるを得ないだろうか。

「私のお家も景色のひとつ」という言葉がある。終戦後、国民に観光事業への深い認識と参加を呼び掛けるために掲げられた標語だ。私はこの言葉の中に、日本・東北が観光の国際競争の中で生き残るためのヒントがあるように思う。世界中のどの国にもない日本ならではの“私のお家（景観のパーツ）”が集まって、歴史や文化、日本人の精神性が宿る観光地をまちぐるみで創り守り通すこと。いまならまだ間に合う。

観光は裾野の広い産業である。旅行業、宿泊業、輸送業、飲食業、土産品業…そして観光消費による税収効果への期待も大きい。観光業界の関係者は、このような波及効果が生じて地域に様々な恩恵がもたらされることをあまねく知らせ、行政や地域の人々も巻き込んで郷土の観光振興に更に取り組むべきである。誰もが「私のお家も景色のひとつ」の精神を宿すことこそが、東北地区を魅力的な観光地に育て上げる要となるのではないだろうか。

東北は日本で唯一域内の旅行者比率が高く、震災後も東北在住者が東北各地に足を運んだことから、国内旅行者数も大きく激減するという最悪の結果は免れた。また観光庁が開催した東北観光博、2度目の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンなど、誘客への起爆剤となる仕掛けも東北に於いて行われる。これらの背景を追い風に、「私のお家も景色のひとつ」の精神と共に、魅力溢れる東北の観光地の復興と外国人旅行者数の回復にこれからも努めていきたい。

(株式会社ホテル佐勘 代表取締役会長・さとう じゅん)